

平成 19 年度宮前区区民会議地域防災部会（第 1 回）摘録

日 時 平成 19 年 7 月 3 日（火）18 時 20 分～20 時 00 分

場 所 宮前区役所保健所 1 階

出席者 渡辺部会長、宇賀神委員、鈴木恵子委員、福本委員、松本委員

オブザーバー 永野委員、川西委員

事務局 田辺企画調整担当主幹、中山同主査、成沢職員
橋本地域振興課長

1. 開会

- ・ 資料確認
- ・ 会議公開について

開会挨拶（渡辺部会長）

- ・ こんにちは。部会長をおおせつかりました渡辺です。微力ながら、みなさまのご協力、ご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。

2. 議事

（1）部会名称について

話し合いの結果前回の勉強会（非公式会合）で仮称として決めた「地域防災部会」を正式名称として決定した。

（2）具体的な審議テーマについて

事務局による資料 1 の説明の後、意見交換を行った。

永野委員 耐震診断費用補助について賛否両論あった資料にとあるが、私が言いたかったのは耐震診断より補強が大切であり、診断だけいくらやっても意味がないということだ。耐震補強費用補助を進める必要があるのではないかと。診断を受けても、実際の補強が遅れている。補強をどんどんしなければならぬ。最近のポイントを抑えて、それほどお金をかけなくてもできる補強もある。

宇賀神委員 診断費用はそれほど高いものではない。簡易診断なら数万円でできる。なぜやらないかという、悪い結果が出るのが怖いのではないかと。耐震補強にお金がかかることを恐れており、現実をつきつけられるのを怖がっている。補強は安くできる、簡単な方法もあるという PR をもっとすれば、やってみようかとなるのではないかと。

永野委員 川崎市が全国に先駆けてやった、「自分でできる簡易耐震診断」をもっと活用してはどうか。

渡辺部会長 私の家は築 40 年以上経過しており、自己診断での点数も低く、かなり危ないなというのはわかっていたが、市に申し込んで診断をしてもらったら、まだ最終結果は出ていないが、図面にある筋交いなどが入っていないことがわかり、愕然とした。私のような素人は一度専門家に診断してもらわないとなかなか納得がいかない部分がある。耐震診断補助も私自身の経験としては有効だと思う。パンフレットを見ると、耐震工事の設計や実施についても補助が出るようになっている。

川西委員 耐震は大切だという認識は皆さんもっている。しかし無料で診断を受けても、補強のための費用が高ければそこで二の足を踏む。入り方の問題で順序が逆だ。地震発生 15 分以内に亡くなる方のほとんどは家屋が倒壊することによる圧死。まず動けない状態にならないために、自分を守るため

に耐震が重要というような話をまずしなければいけない。まず「無料で診断しますよ」という入り方はおかしい。耐震はお金をかかってもやらなければならないというコスト意識を育てることが大切であり、筋道をおろしたアナウンスが大切ではないか。

永野委員 共助について、先進地の先進地の静岡の取組では 80 人くらいを一組にし、町内会より狭い地域で助けあう組織の形成を目指している。宮前区でももう少し身近な組織を目指すことが必要ではないか。

宇賀神委員 現状の自主防災組織を変えたり、さらに組み分けしていくことは非常に困難だと思う。確かに単位として 80 人くらいが一番まとめやすいとは思いますが...

永野委員 明日のコミュニティ部会では、小学校区単位のコミュニティ形成を目指すとしている。合わせて防災を強化していくことを考えてもいいのではないか。

福本委員 宮前区には阪神の時に被害が大きかった住宅密集地域はあまりなく、比較的閑散としている。都心部とは防災の方法も違ってくるのではないか。住民が集まる際の規模も違ってくる。最終的には拠点に集まらなければならないが、その前段階は自分の家の近所で済むのではないか。

大きな組織よりもそれをいくつかに分けた、マンションなら 1 棟くらいの単位で動く方が動きやすく、便利だと思う。野庭西団地では 40 世帯くらいを一つのグループにしている。いくつかの町会が集まるような規模の大きい避難所では、收拾がなかなかつきにくいのではないか。

宇賀神委員 私の地域では、10~20 件で組を形成しているが、これだと少し小さすぎる。この単位でいろいろな管理をまかせると、誰か一人担い手がいなくなると問題が出てくる。40~50 世帯になると、誰かがいなくなっても助け合いができる。

鈴木委員 40 世帯くらいのグループがいろいろな組織や地域を見ても良い線だ。ご近所サークルでもそのくらいがまとまりが良い。歩いて 7,8 分の圏内になる。

野川地域も町内会によって温度差がある。現在野川台自治会という人口 1000 人くらいの地域で、要援護者の情報を把握し、その情報も含めた防災マップづくりの取り組みが始められた。地域全体を見るとというのはとても大変で、できるところから地道な活動をやっていくしかない。

福本委員 とにかくやってみる。まず組織づくりをすることが必要であり、そこから改善していけば良い。町会などの組織には 部長など長が沢山いても、部員が全然いないことがある。防災部長がいなくても部員がいけないのでは、何かの時には動けない。

渡辺部会長 具体的な課題、審議テーマについては、資料 1 にまとめられている 6 つの課題でよろしいでしょうか。ある程度方向性を決めたいと思います。

福本委員 良いと思います。

宇賀神委員 公助の部分については、資料にもあるように他の組織でいろいろな取組が進んでいるということで、ある程度方向性が出ていると考えるのでしょうか？

渡辺部会長 そうですね。共助もやりますが、まずは自助を中心に皆さんのご意見を聞いていきたいと考えています。よろしいでしょうか。

一同了承

(3) 地域の課題の解決策について

福本委員 転入世帯への防災情報の提供は、転入届が来た時に町会に加入してもらうのが最も早い。区でも転入の機会をとらえて、「町会に入ればいろいろ情報が入ります」と言ってもらえると良い。

事務局(橋本) 転入世帯に対して町会加入促進のパンフレットを配布しているが、当該地域がどこの

町会で担当が誰かまでの案内は、なかなかできていない。

渡辺部会長 自治会長も新しく来た方のお名前や連絡先はなかなかわからない。

川西委員 町会の担当者の連絡先をお知らせできていないというのが、個人情報の保護が絡んでいるのでしょうか？

事務局（橋本） 絡んでいます。また、区内には70町会がありますので、なかなか全ての照合ができないということもあります。

宇賀神委員 転入者に対してのおたくの町会はどこというアナウンスまではできていないということですね？

事務局（橋本） できていません。「町会に加入するとこういうことがありますよ。だから町会に入ってくださいね」という紹介に留まっています。詳しくは地域振興課にお問い合わせ下さいという形になっています。

宇賀神委員 地域振興課宛てではなく、転入者の住所と照らし合わせてあなたの地域はどこの町会が管轄ですよ。連絡先はここですよという形ができれば一番良いと思うのですが...

事務局（橋本） 転入転出が多いのが役所の繁忙期である3月や4月ということもあり、窓口にならんと人が並んでいる状況で、なかなか思うようにできないジレンマもあります。

鈴木委員 地域の不動産屋などを活用してはどうでしょうか。地域としては一戸建ての方の転入転出は比較的把握できますが、アパートなどの方の情報が掴めない。賃貸アパートなどでは、不動産屋に町内会のPRをお願いするのが、一番効率が良いと思います。

事務局（橋本） そのような話しも出てきています。場所によっては、集合住宅の1棟まとめて、管理費の中に町会費も組み入れ、町内会に入って下さっている所もあります。

宇賀神委員 「入ってもいい、入らなくてもいい」という姿勢ではなかなか入ってもらえない。「入らないとだめ。入らないとこまりますよ」というくらい言わないと。

事務局（橋本） 課としては、そういうスタンスでご案内しています。「入らないといろいろと困りますよ。ぜひ」といっています。

宇賀神委員 「ぜひ」と言いつつ、「じゃあどこ？」といわれて答えられないのでは困る。一覧表くらいは用意しておき、そこに連絡先もあると良い。

福本委員 各町会の子承を取って、なんとかできないか。あまりプライバシーばかり言うと、何もできなくなってしまう。

事務局（橋本） 今回住民自治組織調査の中では、地域の窓口となっている方に「情報を公開させていただいていいか」という問いかけもしている。ご理解が得られれば、各町会の担当者の連絡先をいれた一覧表の作成も可能だと思います。

福本委員 転入してきたばかりの人は、新しい生活に対する喜びも不安も強い。その機会を捉えて、うまく声をかけることが重要だ。うちの団地（野庭西団地）では、入居してきた時にある程度情報を聞いて、町会のしきたりや会費などもきちんと説明している。10年来、町会に入らないと言って来た人はいない。

鈴木委員 野川町会は、人口が1万人くらいでとても大きい。このぐらいの規模になってしまうと、とてもそこまでできない。町内会長がなにかまとめると言っても無理だ。

事務局（橋本） 先ほどマップの話が出ましたが、実は2年程前に、マップに名前等の情報も載せて配ろうとした時に、町連の総会で認められず、だめになったことがあったそうです。

永野委員 情報提供と同時に、町会の方でも受け入れる体制を整えなければならない。防災部会などの

組織がきちんと出来ていないところも多いのが現状だ。うちの町内会では婦人消防隊があるが、あくまで消防隊という意識で防災の意識はない。防災という視点から町内会の体制を整えていく、担当者を設けていくことが必要ではないか。

宇賀神委員 全地域には自主防災組織が、少なくとも建前上はあるはずである。やはり自治会の加入率をいかにあげるかということが大切ではないか。

事務局（橋本） 宮前区全体では、加入率が約7割弱となっています。

鈴木委員 やはり野川のように世帯数が多くなりすぎるとまとめにくい部分があります。3

福本委員 野川などでは、あたらしい丁目になるということで、それができればかなりまとめやすくなるだろう。これまでは番地がバラバラでまとめにくかった。新しい区画割りができた機会をうまく捉えて組織編制ができると良い。

永野委員 全員加盟してもらうのが理想だが、意識的に加入していない人もいる。こういう人と町会をどうつないでいくかが問題だ。

事務局（橋本） 頭が痛い問題です。マンションやアパートなどで加入率が低いということに対して、今年度、花の台町会さんで、地域の防災訓練に未加入のマンションさんに参加してもらい、町会加入につなげる試みがなされている。何かきっかけやアプローチができればと考えている。

渡辺部会長 やはり情報提供では、自治会・町会を通しての情報提供が多くなると思います。加入率の向上が大切というのがやはり皆さん共通のご意見ですね。

福本委員 マンションの場合、会議室が無くて住民が集まる場所に困っているということもあるようだ。うちの町会でも近隣のマンションに使ってくださいと声をかけているが、まだ利用は無い。集まれば、いろんな意見は出るだろうが、何か始めることはできるだろう。

永野委員 自治会の未加入者でも子どもがいれば幼稚園や学校とのつながりがある。課題の一つにあるように幼稚園・保育園と地域との連携ができれば、つながりができるのではないか。子どももいない人に対してアプローチするしくみを考え出す必要がある。

宇賀神委員 私の家の隣にも20世帯ほどの賃貸のアパートがあるが、若い人が多く、腰掛的に一時期だけ住んでいるという人にとっては、「自治会に入る」という考えは全くないようだ。

松本委員 宮前区に来る前に中原区に住んでいたが、町会には入っていなかった。誰にも入れと言われなかったし、入らずに困ったことも無かった。入ったら毎月お金を取られるという認識くらいで、町会に入る意義がわからなかった。若い人は、なぜ町内会があるかもわかっていない人が多いのではないか。街灯などもやっていることも私も最近知った。もっと町内会の活動をもっとPRして良いのではないか。町内会に入ったら、掃除をさせられて、お金をとられて、ゴミ当番をさせられて、嫌なことしかないというイメージしかなかった。知らないというのがまずあると思う。

今は社宅に住んでいて自動的に町会に入っているが、賃貸住宅の住民はほとんど町会に加盟していないのではないか。子育ての集まりでも市政便りを見た事がないという方が結構いる。

横浜市では大型の集合住宅の住民が町会に入りたいといったら、管理組合から止められたことがあったと聞いた。多くの世帯が一度に入ると町会の方で面倒が見切れないからと断られるということもある。

転入者には若い人が多い。子どもが小学生なら小学校とつながれるが、乳幼児の親は地域とのつながりがないことがある。子支連では、転入者の情報があれば役所の窓口に行くよう案内しており、行けば丁寧な案内をしてくれているようだが、そのきっかけが無いひともあるだろう。

宇賀神委員 人づきあいがわずらわしいという方もいる。加入のメリットをいかに示すかどうかだ。

川西委員 個人でどこにも所属せず、町会自治会の認知も低く、加入のメリットを認識できない人を拾うのは至難の業だ。ものすごいエネルギーを使っても効果があるかどうかはわからず、最後の手段ではないか。もちろん従来からのやるべきことはやるが。

防災は「固い」というか、家が潰れるとか人が死ぬとか、面白い話にはならない部分がある。本日の参考資料の平成16年度の防災シンポジウムの講演録の中でも、東京大学の加藤先生のご発言で「あまり防災、防災で意気込まない方が良いのではと考えています。防災は、決して楽しいことではないので、中々長続きしない。ですから地域のいろいろな活動の中で、防災を地域の普通の活動の中に織り込んでいくということを是非していただきたいなと思います。」とある。

例えば、9月1日の毎年の防災訓練を若い人が冷やかな目を見ていることがあるが、そういう連中でも物や食べ物を配る時になると寄ってくる。どこの町会も炊き出しはすごく頑張っている。私はもっと楽しくしてしまっても良いと思う。各地域の炊き出しを食べてスタンプを集めるとか、おにぎりの中身などうちの地域は地場のこれが入っているみたいなこともできるのではないかな。

福本委員 炊き出しは費用がかかるので、大変な部分がある。またもし怪我や火傷をした場合、ちゃんと保険に入っていたかどうか重要となる。うちの町会の規模だと、保険に入ると炊き出し分の費用が無くなってしまう。大きな町会であれば、ある程度費用も集めやすいのかもしれないが、町会は日頃から、防犯灯の電気量や水道タンクの費用など何かと支出が多い。

川西委員 町会が全て持つ必要は無いのではないかな。また町会がそれだけ頑張ってしまうから、見ている人たちは町会に入るといろいろやらなくてはいけないと思ってしまうのではないかな。

福本委員 たしかに食べ物をやると人が集まるということはある。昔目黒にいた頃、区から賞味期限切れ間近の非常食をたくさんもらってきたことがあった。非常に便利だった。

渡辺部会長 宮前区でもやっています。

福本委員 まだもっているものもあります。非常食は賞味期限が切れてもどのくらいもつのか、テストしてみたいなんて思っている。

川西委員 炊き出しは大変というが、教育や子育て分野ではそういったことをよくやっている方々がいます。学校のバザーなどでも、地域に呼びかけてやればすぐできるのではないかな。

鈴木委員 私達は毎年1回、お年より向けにいいいの家まで何分で来れるかという訓練をやっていて、230食のおにぎりや豚汁をつくってふるまっている。毎年「炊き出しの練習だね」といいながらやっており、楽しいイベントになっている。

宇賀神委員 私もまだ見た事がないが、初山に近いある地域では、防防災訓練を運動会形式にしてまった所もあると聞いた。昔町会でバケツリレーをチーム分けしてやろうという話になったことがあったが、結構みんな「あそこは人数が多いから」など熱くなって盛り上がっていた。結構楽しめると思う。

永野委員 毛布で簡易担架をつくって人を運ぶリレーなど、いろいろできそうだな。

宇賀神委員 訓練をしながら、楽しめる要素を盛り込むのも工夫のひとつですね。

川西委員 こどもたちを学校から引き取るという訓練もあるが、ある校長先生が「全く意味がわからない」と言っていた。実際に登校時に地震があった場合は、まずは学校から帰さずに待機させることになる。学校が避難所ならば逆に家から学校に行く訓練も2年おきにするなど工夫が必要なのに、毎年同じことをやる。もう少し考えた方が良さそう。

渡辺部会長 防災訓練にたくさん人が集まってもらうために、いろいろな工夫も必要だが、意識啓蒙のための出前講座などもどんどんやっていただきたいと思う。

川西委員 自治会ではこれをやっている、どこでは何をやっているという話がでるが、全くやっていな

い人たちや地域をどうするかということも考えないと具体性が無い。

松本委員 乳幼児を抱える人は防災訓練には出てこない。子育て中の親が集まっている子育て支援センターなどで開催される救急法の講習会などは需要が高く、いつもあっという間に終わる。両者を組み合わせるようなこともできないか。子育て世代がいつも集まっている場所で訓練を行なうなど、会場を変えたり、そういう工夫も必要だ。

川西委員 地域安全マップ作成のインストラクターによると、地域の掲示板がその地域の一つのチェック項目になっている。掲示板の掲示物の回転が良く、いろいろな情報が掲示されている所は地域の誰かがきちんと活動を行っているということだ。しかし若い親などと一緒に地域を周ると、地域の掲示板がどこにあるかも知らず、見た事が無い人もいる。いろいろな活動を連携させていくことが必要だ。

渡辺部会長 防災と他の分野を、いろいろな方法をとりながらつなげていく必要がある。

宇賀神委員 自治会だけでやっているのでは駄目ですね。子育てなどいろいろな所とつながる。

川西委員 地域がPTAとつながることが必要だ。地域安全マップの作成・活用も有効だ。お楽しみを取り入れながら、企画すれば、今の若いお父さんたちも結構参加してくれると思う。

宇賀神委員 PTAから出前講座を企画するというようなこともできるのでしょうか？

川西委員 ぜひやりたいと言えればいい。うちの地域で地域安全マップに取り組む時はPTAが関わらないと意味がないということで、校外委員の方々にまず関わってもらった。

町内会が高齢化して担い手がないというのが、小学校には毎年新しい親たちが入ってくる。校外委員の親たちに町会の担い手になってもらうには一緒に出会う場をつくらなければならない。それが何かといたら、地域安全マップであったり、集団下校の時だ。顔を合わせてすぐ散会するのではなく、コミュニケーションが深まるようにうまく持っていけたら良い。

福本委員 PTAはある程度しっかりした組織だが、地域から入っていくのが難しい印象がある。地域教育会議に参加しても、地域の人とPTAの人では普段の話や問題意識が全く違う。我々にとっては初めて聞く話が多く、PTAの人達同士では「あの問題」と言うだけで、中身を言わなくてもお互いにわかっていたりする。特に教育会議で非常に温度差がある。

川西委員 野川でしょう。野川は非常に問題なんです。宮前区でも最大のなんとかしなければいけないところだと思います。全市の中で笑い者になったんです。「表彰状をくれ」と言った。本当にみんなで恥ずかしくなりました。

福本委員 確かにそういうところはありますが、我々町会がうまく関わっていければ、確かに効果は高いと思う。何より皆さん若い。PTAと良い関係ができていければ、随分助かると感じている。

鈴木委員 災害が起きた時、弱者になるのは高齢者が多い。その方たちをどうやって守るかが大切。若い方は体力も回復力もある。高齢になってくると何かあると立ち直れないことも多い。そこをどうやって誰がサポートするのか。避難所も高齢者ばかりが残ってしまうことがある。若い方たちが自分達さえよければということでは困る。地域教育会議がどこまでやれるかと考えるとやはり普段からの地域づくりが大切だなと思う。

福本さんの所でも、見守り体制はできているが、高齢者が高齢者を見守っている状態だ。そこは何とかしなくてはいけない。野川でも南台の840世帯の団地が高齢化しており、誰が誰を助けるのか、皆目見当がつかないという話が出ている。宮前区は平均年齢が若いというが、その中でもうんと高齢化が進んでいる地域があることも忘れてもらっては困る。

福本委員 うちの団地では、支援の必要な高齢者を病気や痴呆などの状態によってランクづけしている。助ける側でも70過ぎの人が元気に活動しており、一概に「高齢者」ということはできない。

永野委員 新しく宮前区に転居してきた方を集めて、「宮前区のくらしかた」というような講座、説明ができるの良いのではないか。そこで防災のことも入れていけば良い。免許証の更新の際にやる講習のように、オリエンテーション的なものできないか。そこに様々な組織の方も参加していただいて、説明すれば良い。

松本委員 今年の5月30日に子支連の主催で「ウェルカムクラス」という転入者ばかりを集めたクラスを開催した。3・4月の転入が多い時期で、その時期に来られた方が、子育て支援センターなどに行ってもすでにグループができていたりして、なかなか友達ができないということで、どれくらいニーズがあるのか全くわからない状態だったが、来る人は拒まずで、市民館の大会議室で開催した。広報はウェルカムキャンペーンにチラシを入れ、ホームページ、カンガルー通信などに少し掲載しただけだったが、応募が50組ありました。

水曜日の午前中という平日開催でしたが、子どもを二人連れてきたり、旦那さんと一緒に来られた方もいた。来るときは知り合いもいなくて表情も固かったが、まず保育士さんなどに来てもらって手遊びなどの後、地域ごとにわかれて輪になって、自己紹介・情報交換をした。民生委員や私達のような先輩お母さんもグループに入った。まだ自分のうちがどこかもうまく説明できない人も多く、話題は「スーパーどこ行く?」「お医者さんどこ行くの?」などの話からだったが、帰る頃には友達になり、メール交換をしたり、ランチの約束をしてにこやかに帰る姿が見られた。

参加者は宮前平、宮崎台など市民館周辺の地域の方が多かった。有馬や野川の地域でもやれば、人が集まるのではないか。子支連では来年は地域毎に開催できればということで話が進んでいる。地域毎に転入者を集めて情報交換と一緒に防災のことなども話したり、地域の方にも入っていただけるような場ができればいいと思う。

参加者の方の転入時期は結構バラバラで、10月頃の方や、1年以上経っているが市民館に「ぜひ参加させてください」と言ってきて参加した方もいた。

川西委員 すごく良い企画だと思います。

松本委員 赤ちゃん広場の統計でも有馬、野川では参加者が増えており、昨年1年間はこれまでの倍以上増えた。

鈴木委員 野川の赤ちゃん広場はすごい。足の踏み場がないほど混雑しています。

松本委員 有馬地域などの住民の方はやはりここ(区役所や市民館)まで出てくるのがしんどい。また、集まれる場所があまりないようです。

川西委員 野川で集まれる場所というと、いこいの家か子文くらいしかない。町内会館では少し狭い。

松本委員 有馬地域で開催できれば、すごく人が集まると思います。

川西委員 新しいマンションが建つのであれば、そこモデル地域に会合を立ち上げてみてはどうか。

福本委員 誰が出前にいくのかが問題だ。担い手育成が必要。

宇賀神委員 危機管理室で出前してはどうか。

鈴木委員 内容がわかりやすい、やさしいのが良い。

宇賀神委員 子育て世代向けの工夫などは必要だと思いますが、結構わかりやすい講座をやっています。

永野委員 「枕元には笛とスリッパと懐中電灯」などどんどん普及したい。

川西委員 コーディネーターが必要ですね。ただ講座をやれば良いのではなく、座の雰囲気をはぐし、沸かせるアイスブレイクなどのスキルも必要です。いろいろな要素をパッケージングして提供したい。

松本委員 無理して1回にやらなくてもいいのではないか。今回は子育て、次回は防災やりますよという形。

福本委員 「防災」だけだとなかなか人を集めにくい。やはり子育てなどと組み合わせると良い。

川西委員 今の母親というのは、互いにメールなどでやりとりをしていて、普段は友達に困っていない方もいる。でも何かあった時に助けを求めるのは近所だ。

松本委員 子育て現役同士のお友達というのは意外に近所が少なく、離れた所に住んでいる。幼稚園も通園バスが周っているので、同じクラスでも宮前区の端と端に住んでいたりする。普段は車や電車で互いのお家に遊びにいらしても、本当に地震があった時に助け合える相手ではない。

鈴木委員 同世代だけで固まらないことも大切。災害があったときは近所で助け合わなければならない。様々な世代の知恵からもいろいろと感じて欲しい。先日、地域で緊急時の処置の仕方や AED の使い方などの講習をやったら、すごく人が集まった。またやってくれと言われて、10月にまたやる予定だ。

福本委員 うちの地域では防火訓練はよくやっているが、防災訓練はあまりやっていない。

宇賀神委員 うちが逆です。防災訓練をよくやっている。

渡辺部会長 10月から緊急地震速報が始まります。これへの対応や活用も、一つの課題として入れさせてもらいたい。せっかくの情報があっても、パニックになっては逆効果である。

宇賀神委員 皆さんそうだと思いますが、わたしも非常に関心があります。

川西委員 今のテスト版では、地震発生が6秒ほど前に予報が出て、カウントダウンがされるようだ。その間に何ができるかという意識付けにもなると思う。

ただ、現在はまだ個人レベルのものとなっていて、情報がもらえる人はいいが、もらえない人はどうしたらいいのか。

渡辺部会長 防災無線の活用とか、いろいろ今後は考えられるのではないかな。

鈴木委員 NHK で今宣伝もしていますね。

宇賀神委員 話題性は今後どんどん高まると思います。

川西委員 モニター募集は数時間でパンクしたと聞いた。

福本委員 予報からの発声の間の短い6秒で何ができるか。

鈴木委員 机などの下にもぐったり、子どもに声をかけたり、火を消したり、できることが結構あるのではないかな。

渡辺部会長 私の様に家が潰れるとわかっていたら、まず外に逃げる。家の倒壊というのは、逃げられなくなるし、周囲の他人にも迷惑をかける。火事の原因にもなるし、自分だけでは済まない。その意味でも耐震はやはり大切。阪神では10万棟倒れ、6千人が亡くなった。ひとつでも倒壊件数を少なくすることは災害防止になる。

そろそろ時間となってしまいました。今日は第1回目なので、まだまとまりのない話でしたが、事務局に整理をお願いし、第2回は今月末にひらいて8月の区民会議には何らかの報告ができるようにしていきたい。いかがでしょうか？

川西委員 前回の子ども部会などの報告の様に「誰が、いつ、どうする」といったようなところまで出すのでしょうか？

事務局 8月は中間報告と考えて良いと思います。もちろんそこまでできれば、それは良いのですが。

渡辺部会長 今日あまりきちんと紹介できなかったのですが、事務局の方で参考資料として平成16年度防災シンポジウムの講演録や内閣府の「一日前プロジェクト」報告書が配布されています。自助の部分で非常に参考になる資料だと思いますので、ぜひ次回までに目を通していただければと思います。

川西委員 自助にしても共助にしても、非常に水平軸に広く底上げをしなければならない部分と、縦軸で情報提供などターゲットを絞ってやっていかなければならない部分と、両者を上手に組み合わせて

いく必要がありますね。

永野委員 今後は、何をやるべきかを明確化させないと。例えばただ意識向上ではなく、何を伝えるのかということ。資料2の「備える。かわさき」も、「何をすべきか」という視点でみると、情報が古かったり、まだ他にも大切なことがあるのではと感じる。

耐震補強も、ただ「耐震補強しましょう」ではなく、「こういう所をやれば確実に強くなります」というアナウンスをしたい。筋交いを増やしたり、柱と土台を金物で固定する。部屋作りでも今はパソコン・TVが飛んでくるのが怖い。これだけはかならずやろうという中身を検討する必要があるのではないか。

川西委員 寝ているときは無防備で、何かが落ちてきたり飛んでくるのが怖いのですが、逆に何も無い部屋も怖い。ある程度は棚などもあった方が、天井が落ちてきても支えになったりする。狭い部屋のほうが助かるという統計もあります。そういったことも一つずつ伝えていきたい。あととにかく怖いのはピアノですね。

3. その他

次回日程について...話し合いの結果、7月25日(水)に開催を決定。

地域振興課より

防災フェア開催報告...6月24日、有馬の市場で防災フェアを開催しました。微妙な天気でしたが、250名ほどの参加がありました。(主催者発表は500人)アンケートの結果を見ますと、19自治防災組織からお越しいただき、好評だったのは出前講座と防災用品の展示などです。市民救命士の講習は約30名の方が受講しました。年内にまた開催予定です。

自主防災組織の活動...7月9日(月)午後2時から、市民館大会議室で、避難所のマニュアルづくりに向けた勉強会を開催します。ご都合がつく方はぜひお越し下さい。

町会加入の促進について...今後、町連の会合などでもお話が出していければと思います。

出前講座について...静岡では、地域の防災指導員の方に担っていただく制度があり、現在その研究など行なっています。宮前区内でも2名、防災指導員の資格をもっている方がいらっしゃいます。今後連絡協議会とも相談し、より身近な講座を開いていけるようにしたいと考えています。

閉会